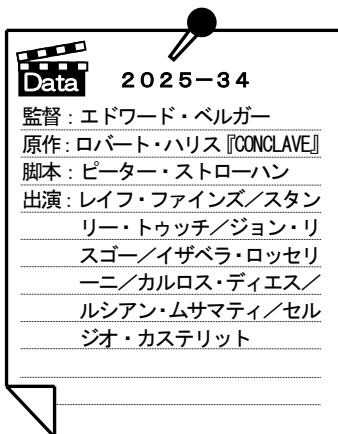




👁️👁️ みどころ

コンクラーベとは1268年にルールを確立し、現在まで行われている互選による教皇選挙のことだが、その前提として、①ローマ・カトリック教会、②教皇、③枢機卿、④ローマ教皇庁、等の知識をしっかりと学ぶことが不可欠だ。

次に、日本人には1970年代の「角福戦争」を代表とする自民党の総裁選挙がおなじみだから、それとの対比でコンクラーベの選挙システムや規制の少なさ(いい加減さ)をしっかりと押さえたい。定員約120名の枢機卿による秘密投票の互選で、投票総数の3/2以上の獲得者が出るまで何回でも投票を繰り返すシステムの是非は?永久に決まらないリスクをどうやって回避するの?

また、高位聖職者の枢機卿に限って“買収”はあり得ないかもしれないが、どんな選挙活動が許され、許されないのかを、すべて神の意思と枢機卿の善意に委ねるのは如何なもの?ある候補者は「コンクラーベは戦争だ!」とまで言い放っていたが、そんなシステムで選ばれた人物が本当に世界一の信徒数を誇るキリスト教の最大にして最古の宗教の一つであるローマ・カトリック教会のトップが務まるの?

いろいろと考えさせられることの多い映画だが、小スクリーンながらも連日満席状態が続いていたことには少し元気も!

■□■小スクリーンながら連日満席!なぜ本作が大人気に?■□■

東宝シネマズ梅田をはじめとする、いわゆる「シネコン」は大中小複数のスクリーンを持っているから、客入りを想定しながらスクリーンの大中小を決めることができる。しかし、3/22(土)に鑑賞を予定していた『ウィキッド』と『教皇選挙』は、両作とも第

97 回アカデミー賞にノミネートされた作品だから、それなりの客入りは想定されていた。そして、最大のスクリーンで上映された 3/22 (土) に観た『ウィキッド』は 80% の入りだったから、予想通りだった。しかし、同じ日の 2 本目として予定していた『教皇選挙』は既に満席だったため鑑賞できなかった。

そこでやむを得ず、翌 3/23 (日) の 12:30 からの上映を予約したが、当日劇場に赴くと、その日も次の日も満席だったからビックリ！もともと、そのスクリーンは小さいものだったが、それも予想どおりだ。だって、『ウィキッド』は子供たちを含めた人気のエンタメ作品であるのに対して、ローマ教皇の選挙をテーマにした本作はクソ難しい映画だから、日本では大勢の観客動員は難しいと判断し、小スクリーンを割り当てるはずだ。ところが、土・日と続けて本作の上映が満席になるのなら、大スクリーンで上映すれば良かった！それが映画館経営者の正直な気持ちだろう。

それはともかく、第 97 回アカデミー賞 8 部門にノミネートされて、脚色賞 (のみ) を受賞した本作の出来は如何に？第 97 回アカデミー賞では、作品賞、監督賞、主演女優賞、脚本賞、編集賞を『アノーラ』が受賞したが、第 78 回英国アカデミー賞 12 部門にノミネートされていた本作は、作品賞、脚色賞、編集賞、英国作品賞を受賞している。それはきっと主演がイギリスの俳優レイフ・ファインズだからだろう。彼の出演作はたくさんあるが、私が最も印象に残っているのは、名作『イングリッシュ・ペイシエント』(96 年) (『シネマ 1』2 頁) での彼の演技だ。直近の『キングスマン ファースト・エージェンツ』(20 年) (『シネマ 50』101 頁) にはビックリさせられたが、本作で彼が演じているローレンス枢機卿役は如何に？

■□■選挙は面白い！学生自治会長も大統領も教皇も選挙で！■□■

1968 年 4 月に大阪大学法学部に入学した私は、直ちに法学部自治会のクラス委員の選挙に立候補し、当選した。それ以降、いわゆる全学連 (全国学生自治連合会) を中心とする学生運動にのめり込んだが、そんな激動の大学時代、国内では東京都や大阪府の知事選挙における社共共闘候補の勝利や、チリの選挙による初のアジェンデ社会党政権の誕生など、選挙による社会変革が大きな潮流になっていた。

他方、世界の三大宗教はキリスト教、仏教、イスラム教だが、ローマ・カトリック教会のトップたる教皇も選挙で選出されるらしい。私は今回はじめてその言葉を知ったが、「CONCLAVE (コンクラベ)」とは教皇選挙のことらしい。なるほど、なるほど・・・。

ドナルド・トランプが立候補した 2020 年 11 月と 2024 年 11 月のアメリカ大統領選挙は世界中の注目を集めたが、本作を契機にコンクラベにも関心を！

■□■ローマ教皇はどのように選ばれるの？その前提知識は？■□■

日本国憲法に基づき 20 歳で投票権を獲得した後、国政、地方選挙等を問わず、すべての選挙でその権利を行使してきた私が、弁護士として興味深いのは、選挙制度が議員内閣制か大統領制かによって、まったく違うことだ。同じ民主主義国家でもそれだけ違うのだから

ら、一党独裁型共産国家たるロシアや中国の選挙制度が大きく異なるのは当然だ。2009 年 9 月の政権交代をはじめ、与野党の勢力が伯仲している昨今の日本では、近時、事実上の総理大臣選出選挙である自民党の総裁選挙が注目されている。

日本の徳川幕府は、1603 年から 1867 年まで約 260 年間続いたが、そのトップである「將軍」は世襲制で、最後の將軍は徳川慶喜第 15 代だった。幕末に現れ、明治新政府誕生の立役者の 1 人として活躍した土佐藩士の坂本龍馬は、アメリカ国のトップである大統領が入れ札（＝選挙）で選ばれていること知り、大感激したと言われている。

しかして、ローマ教皇はどのように選出されるの？それが、本作の原題であり邦題にされている「コンクラーベ」だが、そのシステムは複雑だ。選挙システムを厳格に定めなければならないのは自民党の総裁選出システムでも、私が大学時代に経験した自治会のクラス委員や執行委員選出システムでも同じ。阪大教養学部自治会での委員長と書記長は、全学生による直接投票システムだったが、その他の執行委員は各クラスから選出されたクラス委員による間接選出だった。また、自民党の総裁選挙では、

- ① 立候補の推薦人の数を何人にするか
- ② 一般の自民党員の投票と国会議員の票をどう割り当てるか

等の細則の定めが不可欠だ。さらに選挙を公正に実施するためには、強力な選挙管理委員会の存在も不可欠だ。

本作のパンフレットには「Glossary 用語辞典」に次の解説があるので、コンクラーベ（教皇選挙）のシステムを理解するために、これをしっかり学習したい。

ローマ・カトリック教会
Roman Catholic Church

世界一の信徒数を誇るキリスト教。最大にして最古の教派の一つ。最大の特徴は教皇を頂点とし、世界各地の司教たちがそれに仕える世界的な統一体制。これは聖職位階制と呼ばれ、トップの教皇⇒司教⇒司祭⇒助祭⇒平信徒という形でピラミッド型の組織となっている。世界中の司教たちは教皇に仕えつつ、各自の管区（司教区）を監督する。司祭は今のところ原則として男性しか認められていない。

教皇
Pope

カトリック教会のトップ。死去または辞任によってのみ任期が終了する。カトリック教会が定めた教会法上、「すべての男性のカトリック信徒」の中から選ばれることになっており、実際的には約 120 人程度いる枢機卿のみで行う教皇選挙（コンクラーベ）によって選ばれる。現在の教皇フランシスコ（在位：2013 年～）は初の非ヨーロッパ出身の教皇で、アルゼンチン出身。

枢機卿（すうききょう）
Cardinal

教皇に次ぐ高位聖職者で、司教の叙階を受けた聖職者の中から教皇が自由に任命できる。教皇の顧問団。教皇が死去した場合、教皇の職務を代行し、教皇選挙も執り行う。歴史的には当初、枢機卿になったのはローマ近郊の聖職者だったが、やがてイタリア全土、欧州各地からも選ばれるようになり、現在では欧州域外の聖職者も枢機卿に選ばれ、南北米大陸及びアジア・アフリカ中東と国際色豊かである。

教皇名
Pope name

教皇に選出された者はそれを受諾すると、すぐに名前を決める。既に教皇名として使われている名前をとる時は、2 世、3 世……と続く。なお、フランシスコを名乗った教皇は、歴史上一人だけで、2013 年に選出された現教皇である。

使徒座空位（しとぎくうい）

The Vacancy of the Apostolic See

教会法上の用語で、教皇の死去から新教皇が選ばれるまでの期間のことを指す。歴史上、最も長い空位期間は、1268年のクレメンス4世の死去から1271年に新教皇グレゴリウス10世が選出されるまでの2年9カ月あまり。教皇不在の状況に苛立ちを募らせた市民らが選挙を急がせるために、教皇宮殿に枢機卿たちを閉じ込め、徐々に食事を減らしたり、宮殿の屋根をはがして雨風にさらしたという史料が残されている。この間20人いた枢機卿のうち、3人が亡くなり、1人が退任したという。

コンクラーベ／教皇選挙

Conclave

新教皇を選出する選挙。選挙は秘密投票の互選で、定員約120名のうち、規定の有効得票数（投票総数の2/3以上）に達する人物が出るまで繰り返される。選挙権を有するのは教皇が死去した時点で80歳未満の枢機卿のみ。数日にわたる選挙期間中、投票者であり候補者でもある枢機卿たちは外部との接触を一切遮断され、電子機器の使用も禁じられる。新教皇が決まるまでの数日～数週間、枢機卿たちは投票会場に缶詰状態だった時代もあり、そのことから、教皇選挙を意味する「コンクラーベ」はラテン語のCLUM（共に）＋CLAVIS（鍵）＝「鍵と共に」に由来するといわれる。

システリーナ礼拝堂

Sistine Chapel

1492年、初めてコンクラーベの会場となり、1878年以降は常にシステリーナ礼拝堂で行われるようになった。選挙期間中は通風対策なども万全に施される。投票結果の外部への連絡は、使用した投票用紙を炉で焼やし、煙から出る煙の色で行われる。煙が黒ければ新教皇は未決。白ければ、それが新教皇決定の知らせとなる。

聖マルタの家

Casa Santa Marta

選挙期間中、枢機卿が宿舎として使用できるように建設された。食堂、会議室、聖堂を備えているが、各室にテレビはない。選挙期間以外でもバチカンを訪問する司教たちは宿泊でき、現教皇フランシスコもここに住んでいる。

シスター／修道女

Sister

神と教会に献身的に仕えることを誓う女性。カトリック教会は女性が可能になることを認めておらず、劇中で自らを“目に見えぬ存在”と語るシスター・アグネスの言葉は、教会が世界過去の家父長制であることを示唆する。

■108人の枢機卿の無記名投票で2/3以上！その細則は？■

本作導入部ではローマ教皇が心臓発作で急死したことに伴い、イギリス出身の首席枢機卿トマス・ローレンス（レイフ・ファインズ）を責任者として執り行われるコンクラーベのため、バチカン宮殿とその周辺で敷かれる警戒態勢とセキュリティ対策の中で、高位聖職者の枢機卿たちが世界各地から続々とバチカンに集結する姿が描かれる。コンクラーベの期間中、100人余りの枢機卿団は外部との接触を禁じられた隔離状態に置かれ、宿泊施設の聖マルタの家と選挙会場のシステリーナ礼拝堂を行き来することになるそうだから大変だ。

ちなみに、3月17日付朝日新聞は、肺炎で入院中の現実の（現在の）ローマ教皇であるフランシスコ教皇（88歳）が、病院内の礼拝堂でミサに参加する姿の写真を公開したことを報じた。フランシスコ教皇は2025年3月13日に在位12年を迎えたが、就任以来4度目となる今回の入院は1か月を超え、最長となっているそうだから、心配だ。日本は現在

令和 7 年だが、平成時代の天皇は 2019 年 5 月 1 日午前 0 時をもって生前退位した。現在の（現実の）フランシスコ教皇が死亡するまで教皇職を全うするのか、それとも辞任（生前退位）するのかはもちろん誰にもわからないが、本作導入部に見るコンクラーベ実施に向けての慌ただしい準備体制を見ていると、生前退位が妥当なのでは？

それはともかく、18 歳からは学生として大学の自治会で、20 歳からは日本国民としてすべての選挙において、投票権をフルに行行使してきた私は、コンクラーベの選挙制度への根本的な疑問がある。それは、教皇の選出方法について、「選挙は秘密投票の互選で、定員約 120 名のうち、規定の有効得票数（投票総数の 3 分の 2 以上）に達する人物が出るまで繰り返される。」としか定められていないことだ。これでは立候補者が特定されないうえ、何回投票を繰り返しても 3 分の 2 以上の得票数に達する人物が出てこない危険があるはずだ。

■□■国連の構造と酷似！？有力な候補者は？ハプニングは？■□■

本作を鑑賞するについては、前記の「Glossary 用語辞典」の他、松本佐保氏（日本大学 国際関係学部 教授）の「コンクラーベ、その時代背景と現在」と題する Column が必読だ。同 Column は、①コンクラーベ＜教皇選挙＞とは？、②コンクラーベの実施、③保守派と改革派の対立～コンクラーベの現在～、④イスラム教とどう付き合うか？、⑤修道女たちの存在、に分けて解説しているので、それをしっかり勉強したい。また、①稲垣貴俊氏（ライター／編集者）の「密室の選挙ミステリーを支えた名優たち」、②北村紗衣氏（武蔵大学人文学部 英語英米文化学科教授）の「男同士の足の引っ張り合い、それを見つめる修道女～ナンスプロイテーションを裏返す」、③芝山幹郎氏（評論家）の「深海の迷宮と心の迷宮」、と題する 3 本の Review も必読だ。

本作が描くコンクラーベを見て驚くのは、第 1 に欧米出身の枢機卿の中でも、深刻な保守派と改革派の対立があること、第 2 に枢機卿が西欧諸国だけでなく、アフリカ、イスラム等々にも広がっていること、第 3 に枢機卿は男だけに限定されていることだ。ローマ・カトリック教のそんな姿は、まさに国連（国際連合）の現在の姿と酷似！？

コンクラーベは 1268 年に教皇クレメンス 4 世没後に、そのルールを確立し現在まで行われてきた教皇を選ぶ互選の選挙のこと。しかし、選挙管理委員会がなく、ローレンス首席枢機卿がその仕切りをすべて任されているから、彼の責任は重大だ。教皇の健康状態から事前にコンクラーベが予想されていればまだしも、心臓発作による急逝に伴うコンクラーベともなると、その大変さはなおさらだ。そこで、ローレンス首席枢機卿が最初に直面したトラブルは、事前のリストに載っていない枢機卿が現れたこと。それはアフガニスタンのカブール教区からやってきたベニテス枢機卿（カルロス・ディエス）だが、彼は生前の教皇が秘密裏に枢機卿に任命したメキシコ人だったから、ビックリ！そんな彼に教皇選挙における枢機卿としての投票権および被投票権を認めていいの？

他方、今回のコンクラーベにおける有力候補は次の 4 人だ。すなわち、

- ① パチカン教区で米国出身のリベラル派のベリーニ枢機卿（スタンリー・トゥッチ）

- ② ナイジェリア教区のアデイエミ枢機卿 (ルシアン・ムサマティ)
- ③ ベネチア教区で伝統主義者のテデスコ枢機卿 (セルジオ・カステリット)
- ④ カナダ・モントリオール教区の保守派のトランブレ枢機卿 (ジョン・リスゴー)

そんな状況下、ローレンス首席枢機卿は、理由は不確かだが、教皇が死の直前にトランブレ枢機卿と会い、解任を宣告していたという情報を入手したから、さあ大変。コンクラベを仕切る責任者として、そんな疑惑をどう取り扱えばいいの？

■□■第1回投票の結果は？2/3 獲得に向けた各候補の動静は■□■

全 108 名の枢機卿による無記名投票の第 1 回投票では、上位 5 名が、①アデイエミ枢機卿 21 票、②テデスコ枢機卿 18 票、③ベリーニ枢機卿 17 票、④トランブレ枢機卿 16 票、⑤ローレンス首席枢機卿 5 票、となったうえ、一票だけ獲得した枢機卿が何名もいたからビックリ。自民党の総裁選挙では、1 回目の投票で過半数に達する候補者がいない場合は、上位 2 名の候補者による決戦投票で決着をつけるルールになっているから、2 回目の投票で必ず決着が着くが、コンクラベの前記ルールでは、一人の候補者の得票数が 3 分の 2 に達するまで、延々と続く（逆に言えば、いつまで経っても決まらない）ことになるが、それでいいの？

コンクラベにおける無記名投票の姿は実に興味深いが、そんなことを言ってもらえないのが、最有力候補でありながら下馬評に反して 3 位に沈んだベリーニ枢機卿。無記名投票だから、誰が誰に投票したのかが明らかになることはあり得ないが、そこでベリーニ枢機卿はローレンス首席枢機卿が密かに新教皇の座を狙っているのではないかと疑ったから、話はややこしい。「自分は教皇にふさわしい器ではない」と考えているローレンス首席枢機卿は即座にそれを否定したが、保守強硬派の勝利を恐れるベリーニ枢機卿は、「我々が団結しなくてはテデスコが新教皇になる。教皇にひどい仕打ちをした男だ・・・コンクラベは戦争だ！」と語気を荒げたからすごい。

自民党の総裁選挙の歴史は古いが、1970 年頃から 1987 年まで続いた田中角栄 VS 福田赳夫間のいわゆる「角福戦争」は壮絶だった。とりわけ、1972 年 6 月の総裁選挙の決戦投票において田中 282 票、福田 190 票で、佐藤栄作の後継者になった時の壮絶なドラマは、今なお語り草になっている。そんな歴史を知っている私には、コンクラベにおけるベリーニ枢機卿の「コンクラベは戦争だ！」との言葉もわからないわけではないが、本当にそれが教皇に次ぐ高位聖職者の枢機卿の言葉なの？

■□■密室、閉鎖状況下での選挙活動は性善説に基づくもの？■□■

日本の国政選挙や地方選挙はすべて「公職選挙法」に基づく選挙活動の規制があるため、買収等の行為は厳しく規制されている。また、マイクを使った演説や街頭宣伝についても時間帯や人数等に厳しい規制がある。西欧民主主義国ではそれは基本的に同じだし、一党独裁型共産主義国における選挙でもそれなりの選挙活動が規制されている。

それに対して、ローマ教皇を枢機卿の互選で選ぶコンクラベについては、選挙活動を

どのように規制しているのか、本作を観ていても私にはそれがサッパリわからなかった。というより、私には、枢機卿の互選によるコンクラーベには選挙活動の規制は存在せず、108 人の枢機卿の善意と理性にすべてを委ねているとしか理解できなかった。最初から 3 分の 2 以上の得票を獲得しなければ新教皇が誕生しないとわかっているのだから、1 回目の投票でわずかの票数を集めた候補者は、新教皇の選出をスムーズに進めるため、「私は教皇職に就くつもりはないから、私に投票しないでください」と公式に表明する自由（権利）ぐらいは認めてもよいのでは？そんな（人為的な）こと（小細工）をしなくても、神の意思に従って、良識ある投票権を行使すれば、必ずベストの教皇が選出できる、というのがローマ・カトリック教会の言い分なのだろうが、ベリーニ枢機卿が「コンクラーベは戦争だ！」とまで言い放った本作の展開を観ていると、公職選挙法を一つのモデルとした大規模な選挙規制の整備が不可欠だ。

本作中盤から次々と登場してくるスキャンダルは、私に言わせれば、そんな選挙規制の不備が一つの原因だ。

■□ “コンクラーベ” はスキャンダルまみれの “根比ベ” に■□

シャーリーズ・セロン、ニコール・キッドマン、マーゴット・ロビーの豪華三大女優が共演した映画『スキャンダル』（19 年）（『シネマ 46』50 頁）は、視聴率トップを誇るアメリカの保守派メディア「FOX ニュース」における、後に「#MeToo 運動」として世界に広がった“スキャンダル”をテーマにした問題作だった。日本でも、旧ジャニーズ事務所のジャニー喜多川氏を巡る“性加害問題”が大問題になった。そんな“スキャンダル”は営利のための競争にしのぎを削る民間企業内のことで、宗教界ではおそ無縁。誰もがそう願っているものの、実は、実は・・・？

聖職者といえども人間。そして、教皇に次ぐ高位聖職者の枢機卿といえども人間だ。そんな“実態”の一つが表面化したのは、選挙 2 日目の午前の 2 回目、3 回目の投票が終了した昼休みにナイジェリアから来た修道女の訴えによって、アデイエミ枢機卿が 30 年前に犯した性的スキャンダルが明るみに出たこと。これを受けてローレンス首席枢機卿から問い詰められたアデイエミ枢機卿は、実質的に選挙戦から脱落してしまうことに。

そして、2 日目の午後に行われた第 5 回目の投票結果は、トランブレ枢機卿 40 票、テデスコ枢機卿 34 票、ベリーニ枢機卿 13 票、ローレンス首席枢機卿 11 票、アデイエミ枢機卿 9 票、ベニテス枢機卿 6 票になったから、アレレ、アレレ……。側近からローレンス首席枢機卿に届いた報告によると、新参者ながら 6 票を獲得したベニテス枢機卿は何らかの健康問題を抱えているらしい。さらに、トランブレ枢機卿にも不正の疑惑が持ち上がることに。そんな事態を重く見たローレンス首席枢機卿が禁忌を犯して“ある行動”に出た結果、彼は親友のベリーニ枢機卿についても“ある真実”を知らされることに。

このように選挙 2 日目に露見したさまざまな“スキャンダル”は、選挙 3 日目に入るとさらに混迷化していくことに。そんな状況下での互選による投票は一体いつまで続くの？

そこで、最後まで候補者として残るのは、一体誰？他方、ローレンス首席枢機卿は「自分への投票はしないように」との声明を出すの？出さないの？また、コンクラーベの仕切り役としてのローレンス首席枢機卿のさまざまなスキャンダルへの調査権限は一体どこまであるの？弁護士の私にもそこらが全く見えないまま、コンクラーベは底の見えない“根比べ”状態に突入していくことに・・・。

■残された2人の有力候補は？自爆テロの影響は？■

コンクラーベ（教皇選挙）が「コンクラーベは戦争だ！」と言われたり、“スキャンダル合戦”（？）になる姿は“意外”というより、何とも“痛々しい”が、どうもそれがコンクラーベの実態らしい。さらに、下馬評でナイジェリア教区出身のアデイエミ枢機卿が「初のアフリカ系教皇に！」と言われていたことや、カブール教区からメキシコ出身で新任のベニテス枢機卿が登場してくる姿にビックリさせられたが、本作では数回の投票とさまざまなスキャンダルや権謀術策の結果、最後に残された候補者がローレンス首席枢機卿とベニテス枢機卿の2人に絞られていく姿にもビックリだ。

さらに驚かされるのは、コンクラーベの6回目の投票の最中に、凄まじい爆音とともに礼拝堂の一部が損壊するという大事件が起きること。街を襲ったこの自爆テロはコンクラーベの実施と関連づけるのが当然だから、保守強硬派のテデスコ枢機卿が、ここぞとばかりに「今求められる指導者は、宗教戦争は目前だとわかっている者だ！」と訴え、多様さと寛容さを重んじてきた教会の姿勢を痛烈に批判したのは当然だ。そんな意見に対して静かに、しかし力強く反論したのは、ベニテス枢機卿。紛争が絶えない国で大勢の死を目の当たりにしてきた中で、エゴやいさかみの虚しさを解くベニテス枢機卿のスピーチは多くの枢機卿の心底に突き刺さるものだった。しかして、それは投票結果にどのように影響するの？

他方、「自分は教皇にふさわしい器ではない」と当初から自らの“野望”を否定し続けてきたローレンス首席枢機卿は、立場上、公正さを求められる中で、腐敗した現実と良心の狭間で葛藤しながらも、「もし自分が新教皇に選出されたら受け入れよう」との決意を固めていったようだから、アレレ、アレレ・・・。

本作のクライマックスはまだまだ続いていく。さあ、7回目の投票はどうなるの？そんなクライマックスの展開はあなた自身の目でしっかりと！さらに、選挙後に明かされる、ローレンス首席枢機卿が言葉を失うほどの衝撃を受け、全世界が震撼するであろう新たな秘密についても、あなた自身の目でしっかりと。

2025（令和7）年3月27日記